

学生寮・部活動で集団感染を防ぐために

管理監督者（寮長・教職員・監督コーチ等）のみなさまへ

学生寮や部活動は、感染拡大のリスクが高く、これまでも多くの集団感染が発生しています。集団感染を防ぐためには、日々の感染予防策の徹底とともに、「感染者の早期把握」、「感染拡大防止策を迅速に講じること」が重要です。あらかじめ「責任者は誰か」「予防の体制」「発生したらどうするか」等、役割やルールを決めるなど、組織的に取り組むことが、感染発生時の迅速な対応につながります。

集団感染を防ぐ5つのポイント

① 感染発生時の連絡・情報共有体制の構築

- 陽性者（濃厚接触者）・体調不良者が発生した時に、誰が誰に連絡するか決まっていますか？
（大学へも陽性者等の情報を共有していますか？）
- 連絡体制は、学生に共有されていますか？



【POINT】連絡体制が不明確だと、大学としての状況把握が遅れ、組織的かつ迅速な対応ができない可能性があります。また、管理監督者が不在の場合などにも備え、学生間で連絡体制を共有しておくことも重要です。

② 感染発生時の役割や対応方針の明確化

- 陽性者が発生した時に、誰が何を対応するか決まっていますか？
- 事前に、陽性者発生時の部活動継続・大会参加等の方針を決めていますか？

【POINT】事前に役割分担を明確にしておくことが迅速な初期対応につながります。特に責任者を決めて、その人に情報を一元化することで、保健所や大学とのやりとりを円滑に行うことができます。また、部活動では活動の継続・大会参加方針、学生寮では陽性者を速やかに宿泊療養施設や寮内の個室等に移す準備など、対応方針・フローの整備・ハード面の備えを事前に検討しておくこと、集団感染を防ぐことに有効です。

③ 日々の健康管理の徹底

- 学生の日々の健康チェックを行っていますか？誰が行うか決まっていますか？

【POINT】学生が自分の健康チェックを行っても、その情報を集約しないと、有症状者の把握が遅れてしまいます。寮長やマネージャーなど、健康管理担当者を決め、担当者に情報が集約される体制を整備すること、また、「〇〇度以上の発熱は、教員へ報告」などのルール作りが重要です。

④ 相談体制の構築

- 学生が健康相談のできる窓口はありますか？

【POINT】学生が体調不良時に、誰に相談すればよいか分からないと、一人で抱え込み、病院受診や検査などの行動が遅れる可能性があり、早期に感染を把握することが難しくなります。



⑤ 最新の情報に基づく感染対策を

- 常に最新の情報を得て、適切な感染予防対策を行っていますか？

【POINT】管理監督者が、誤った感染予防対策や知識を学生に提供してしまうと、学生が適切な予防行動をとれなくなる恐れがあります。自治体や競技団体等の最新の情報を確認しましょう。



ワクチン接種を検討しましょう

感染や感染後の重症化を防ぐために、ワクチン接種を検討しましょう
(2回接種済の方は、3回目以降のワクチン接種も検討しましょう)



東京都は、新型コロナワクチン接種を進めるため、「TOKYO ワクシヨン」を展開し、ワクチンの正しい知識や接種方法等の普及啓発と、接種記録を登録した方への特典提供を実施しています。
詳細は公式HPをご覧ください →



令和4年1月発行

監修：東京iCDC専門家ボード座長 作成：東京iCDC専門家ボード感染制御チーム

編集・発行：東京都福祉保健局感染症対策部計画課 03 (5321) 1111 (都庁代表)